



春日クリニック

25周年企画

リレーエッセイ⑦ 読者投稿 長崎のM.Kさん



第1回おりひめの会から参加していただいている方から、選手宣誓とあたたかいメッセージをいただきました。本当に感謝しました。ありがとうございました。

『アラフィフ女子の選手宣誓』

宣誓

私は春日クリニックの院長先生をはじめ、スタッフの皆さま方に支えられて今日まで頑張れたことに感謝し、これまでのキャリアを活かした資格取得のために大学入学を目指し、人生の巻き返しをはかります。

50歳からの人生を、より一層充実させることをここに誓います。

第1回おりひめの会参加者 M.K



今から約20年前の朝、私は「なんで朝になったと？目が覚めなければよかった。私はこの子の母親であることが申し訳ない。」と全身の痛みと激しい頭痛で目が覚め、側に立っていた主人に泣きながら訴えたのを覚えています。横にはすやすや眠る2歳の娘の寝顔。

そのまま引きずられるように連れて行かれたのが院長先生の診察室でした。何軒病院を回っても原因不明の頭痛と全身の痛み。もう病院に行く気力すらなかったのが当時の気持ちです。鎮痛剤漬けの毎日。夜中に痛みで目が覚めては座薬でしのぎました。

第二次ベビーブーム世代に生まれ、高度経済成長、核家族化、学歴社会、男女雇用機会均等、バブル時代とバブル崩壊、不景気、少子化…キーワードを挙げればきりがありません。

我が子を0歳から保育園に預け、仕事と家庭の両立。しかし、病気を繰り返す幼子を育てながらの毎日は綱渡りのような生活でした。気付いた時には夫婦2人とも有給休暇を使い切り、身動きも取れない状態。互いの身体に限界がきているのも気付かずに。

清田先生との出会いで、自分の身体に向き合うこと、また女性としての役割の大切さに気付かせていただきました。

20年前のあの時、横ですやすや寝ていた娘も気付けば大学で看護を学ばせていただいています。これも何かのご縁かと感謝しています。たくさんの気付きをありがとうございます。

50歳の目標を途中で投げ出さず頑張り通すために、そして書ききれないほどのお礼と感謝の気持ちを込めて、25周年のお祝いをお伝えできればと思いを書き留めた次第です。

春日クリニックの今後益々の発展をお祈りいたします。

これからもずっと付いていきます笑

⇒ 次回 読者寄稿その⑤

